

ひょうごの遺跡

平成22年(2010)
3月21日発行

75号

兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 TEL079-437-5589 FAX079-437-5599
ホームページアドレス <http://www.hyogo-koukohaku.jp>

しよくほうけい

織豊系城郭として改修された播磨の拠点城郭

といちじょうせき
豊地城跡

小野市中谷町

県道整備（主）神戸加東線交通安全地区一括統合補助事業）に伴い、豊地城跡中心部の発掘調査を実施しました。
この城跡は東条川に面した河岸段丘上に立地し、大規模な土塁が残されることで知られてきました。

当城跡は東播磨の有力武将であった依藤氏よりふじが、戦国時代の初め頃に本城として築城します。その後永禄年間（1558～1570）頃に三木の別所氏べっしょしげむねによって滅ぼされ、あらたに別所重棟が城主になり、天正8年（1580）頃まで存続したといわれています。



堀1から南側の土塁(奥の小山)を望む(南西から)

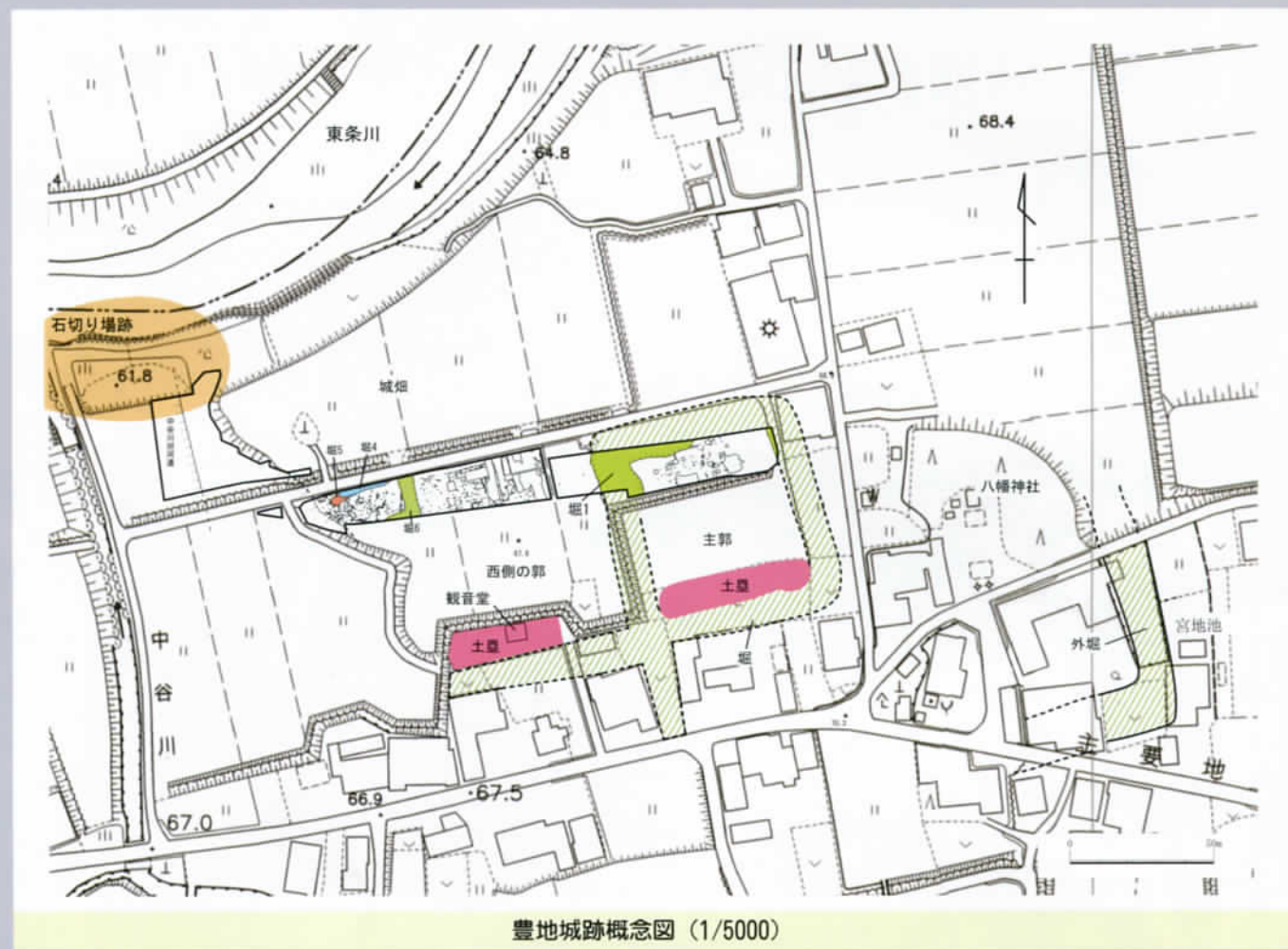
今回の調査では調査区の東側で大規模な堀1を検出しました。この堀は幅12m、深さ2.5mの規模で、堀底は岩盤層まで達していました。そして、堀内からは天正年間（1573～1592）前後の瓦が大量に出土しています。このことから南側の土塁も含め、当城は天正期に大改修を受けていたことが判明しました。

調査の成果

今回の調査によって豊地城跡の東側、堀1で囲まれた郭が別所重棟時代の主郭であることが判明しました。また、西側の郭では堀(堀4・5・6)の検出によって、城郭の範囲が明らかになるとともに、依藤氏の時代の遺構が見つかりました。

このほか今回の調査では、鎌倉時代の集落や近世後期から近代にかけての石組井戸・埋桶跡や石切り場跡(通称池田石)、近代の粘土取り土坑なども検出されました。

池田石の石切り場跡は、東条川河畔の凝灰質砂岩の岩盤を切り出したもので、かつては加古川流域に流通していました。この石材は家屋の土台石や狛犬などに加工されたといわれています。



調査区全景 (西側から)



西側の郭全景 (北側上空から)

主郭の調査

主郭の調査によって南側に残る土塁と堀1が、郭の周囲を巡っていたことが確認されました。

出土瓦の量はコンテナ75箱分に及びますが、この量から郭内部に^{やぐら}櫓など瓦葺の城郭建築が存在したことが明らかとなりました。この瓦葺建物の存在や大規模な土塁・堀の存在から、天正期の豊地城跡が^{しよくほう}織豊系城郭であったことと、この地点が主郭であったことが確認できました。

右上：豊地城跡主郭全景、手前が堀1（西から）

右：堀1から出土した戦国末期の瓦



西側の郭と堀6の調査

西側の郭の調査では城郭に関係する3本の堀が検出されました。部分的な検出のため郭の構造は不明ですが、堀6からは依藤氏が城主であった時代の多数の遺物が出土しました。

時期は15世紀後半～16世紀前半頃のもので、出土した木簡^{もっかん}には文明6年（1474）の年銘が確認されました。（文字は現在分析中です）

堀6全景（北から）



堀6から出土した遺物

堀6からは土師器小皿・中皿・鍋、瓦質火鉢、須恵器碗・鉢、備前焼播鉢・徳利、銅銭、木簡・曲げ物・^{ます}杵・建築部材・板材・石材などが出土しました。このうち土師器の鍋には^{すす}煤やふきこぼれの跡など生活品としての使用痕跡が著しく残っていました。

木簡には文明6年（1474）の年銘が確認されました。

1. 木簡（文字不明）
2. 漆器碗
3. 土師器皿
4. 曲げ物（朱印？）



今回は豊地城跡のように土塁跡が残される平地城館を紹介します。戦乱の続いたこの時代、県内でも多くの平地城館が築られました。これらの城館では“土塁・堀”を巡らせ周囲を厳重に防御したといわれています。

ところで、兵庫県内には1,000ヶ所に上る城館（山城・平城・居館など）がかつて存在し、このうち半数が平地の居館や平城であったと推測されています。しかし、現在では土塁が残される平地城館は20例前後にすぎません。

この意味で、平地に土塁が残される城館について、あらためて考えることは重要だと思われます。

おおぶちやかた
大湊館（県指定史跡）



田園風景と土塁・堀の佇まいが青空に映えます。（南東から）

城郭の土塁

ちじんうせき
豊地城跡の土塁



土塁近景、近づくと意外と大きいことに気づきます。

ありおかじょうあと
有岡城跡の土塁（国指定史跡）



土塁近景、現在は公園として整備されています。（南から）

兵庫県内の平地城郭で土塁を残す遺構は意外と少ない。山のよう地上に大きな起伏を持つ土塁は、廃城になった時点から、耕作や生活にとっての邪魔ものでもあったのです。これが原因で、多くの遺構が後世に削平されたと思われます。

このため、有岡城跡・豊地城跡で大規模な土塁が残されたことは、そのこと自体が価値のあることといえます。

有岡城跡の土塁の内側に築かれた石垣。石材は墓石を転用するなど、周辺のものを集めて積みまれています。



へいちじょうかん 県内の平地城館とその実像

土塁・堀を残す平地城館は播磨・丹波にやや多く、摂津・淡路には少数、但馬には全く残されていません。さらに、播磨の中でも小野市新都町の周辺には6か所が集中することがわかっています。

土塁・堀が残る平地城館の全体数が少ないのは、もちろんさまざまな開発によって消滅したことが大きな原因です。しかし、分布の集中というのも見逃せない事実です。このことを西日本全域で調べてみると、もともとすべての城館に土塁・堀が構築されたのではなく、地域的な差が大きいことも明らかになってきました。そして、土塁・堀が構築されるのは、中小の武士が乱立する地域や、戦乱などの大きな事件に関わった場所に関係することが浮かび上がってきています。

兵庫県の土塁・堀が残る平地城館

■ 守護居館

- | | | |
|--------|-----------|----------------|
| ① 坂本城跡 | さかもとじょうせき | 姫路市書写字西坂本字構江 |
| ② 養宜館跡 | やぎやかたあと | 三原郡南あわじ市養宜中宇土井 |
| ③ 河合城跡 | かわいじょうせき | 小野市新都町 構 |

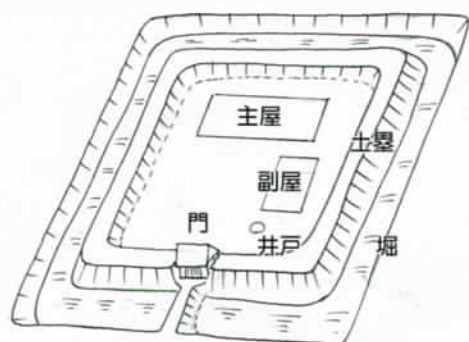
■ 城郭

- | | | |
|----------|-----------|--------|
| (1) 有岡城跡 | ありおかじょうせき | 伊丹市伊丹 |
| (2) 豊地城跡 | といちじょうせき | 小野市中谷町 |

■ 国人・土豪の平地居館など

- | | | |
|-------------|------------------|---------------|
| 1 野村城跡 | のむらじょうせき | 丹波市春日町野村小字小寺 |
| 2 国領城跡 | こくりょうじょうせき | 丹波市春日町国領 |
| 3 河津館跡 | かわづやかたあと | 丹波市春日町東中宇佐中 |
| 4 大淵館跡 | おおぶちやかたあと | 篠山市大淵家中 |
| 5 初田館跡 | はつたやかたあと | 篠山市初田字桶角坪 |
| 6 下井沢城跡 | しもいさわじょうせき | 三田市下井沢字院馬場 |
| 7 富松城跡 | とまつじょうせき | 尼崎市東富松 |
| 8 塚口寺内跡 | つかぐちないあと | 尼崎市塚口町 |
| 9 下津橋砦跡 | しもつばしとりであと | 神戸市西区玉津町出合 |
| 10 石野館跡 | いしのやかたあと | 三木市別所町石野 |
| 11 河合館跡 | かわいやかたあと | 小野市粟生町字鍵町 |
| 12 堀井城跡 | ほりいじょうせき | 小野市河合町字構 |
| 13 小堀城跡 | こほりじょうせき | 小野市河合中町字小堀 |
| 14 河合中奥ノ後城跡 | かわいなかおくのうしろじょうせき | 小野市河合中町 |
| 15 八王子神社城跡 | はちおうじじんじょうせき | 小野市河合中町 |
| 16 屋形構跡 | やかたかまえあと | 神崎郡市川町屋形 |
| 17 殿町構跡 | とのまちかまえあと | 佐用郡佐用町殿町 |
| 18 上田土居跡 | こうだといあと | 南あわじ市神代社家 |
| 19 鍛冶屋館跡 | かじやかたあと | 南あわじ市賀集鍛冶屋字土居 |

*平地に所在する城館のみを対象としています。山城・丘城や城下の土塁は含みません。また、③の河合城は土塁が現存しませんが、参考のために入れています。



城館の概念図

居館と平地城館

武士が普段暮す場所は居館ですが、戦国時代になると軍事的な必要から居館も城に近い構造をもち、城と居館の境が不明確になりました。今回紹介した“城館”という呼び方はこのような意味から付けられた学術用語です。

大規模城館

兵庫県内には、1辺が1町半（1.5ha）規模の守護しゅごに関する大規模城館が3例確認されています。坂本城跡・河合城跡は嘉吉の乱（嘉吉元年1441年）に関係した赤松氏関係の居館といわれ、養宜館跡は淡路守護細川氏の居館です。大規模居館が3例も存在したことが知られるのは、希れなことです。

やぎやかたあと
養宜館跡の土塁



かわいじょうあと
河合城跡



左：養宜館跡は南北150m、東西100mの平地城館で東・北側に土塁・堀が残ります。

上：河合城跡も南北110m、東西100mの城域を持ち、主郭には大規模な土塁が残されていました。

中・小規模の平地城館

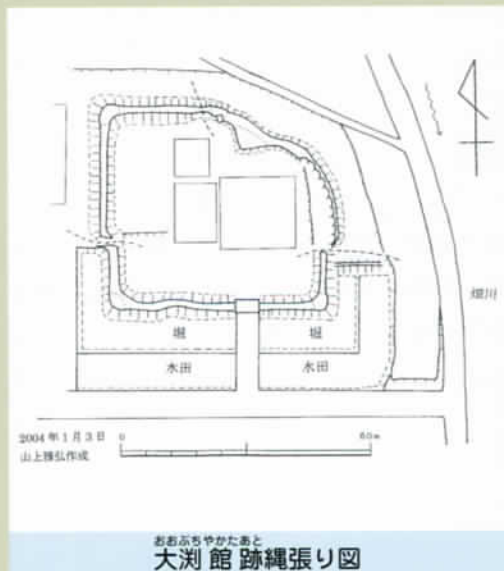
国人・土豪は領主として地域を直接支配した武士です。県下に残る居館では国人・土豪クラスの住んだ中小規模の居館が最も多く、保存状態の良好な居館もいくつか知られています。大湊館跡（篠山市）・堀井城跡（小野市）・屋形構跡（神崎都市川町）はその代表格です。規模から推測すると大湊館跡・屋形構跡は土豪、堀井城跡は国人クラスの居館となります。

* 国人：土地開発を推進した有力武士層

* 土豪：国人の元、特定の土地に根付いた小豪族



やかたがまえあと
屋形構跡の土塁遠望（西側から）



おおむらやかたあと
大湊館跡縄張り図



ほりいじょうあと
堀井城跡の土塁・堀（西側から）

土塁の発掘調査

これまでの土塁の発掘調査には、構築方法を明らかにできる詳細なものはあまりありませんでした。しかし近年、坂本城跡（姫路市）などの発掘調査によって、この問題は解決されつつあります。

坂本城跡の土塁

平成11・14年度に実施された坂本城跡（姫路市）の発掘調査では縦横方向に断面を残すことで、土塁の構築過程が明らかになっています。まず、小さな山を造り、この山に横方向から土砂を被せながら、順に土塁を構築していました。また、防御の上で重要な場所では土塁の幅を大規模に構築する工夫なども確認されました。



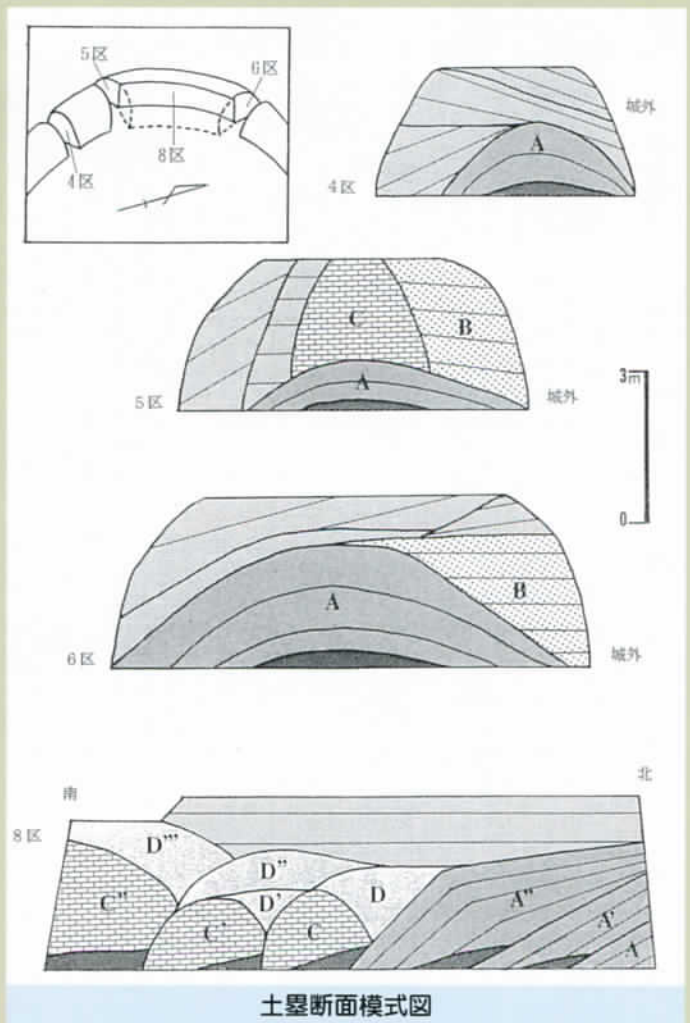
土塁断面



6区（奥側）・8区（手前）断面



8区の土塁



* 本項の図版・写真は姫路市埋蔵文化財センター作製のものを転載しました。

YAMANA

山名氏の城と戦い

戦国時代の守護

特別展

室町・戦国時代に兵庫県北部の但馬を本拠とした山名氏は、応仁・文明の乱で山名宗全が西軍の主将として活躍するなど、室町幕府屈指の有力守護でした。本展では但馬山名氏ゆかりの遺跡や城郭、絵画、文書などの品々から、戦国の世を戦い続けた守護の姿にせまります。



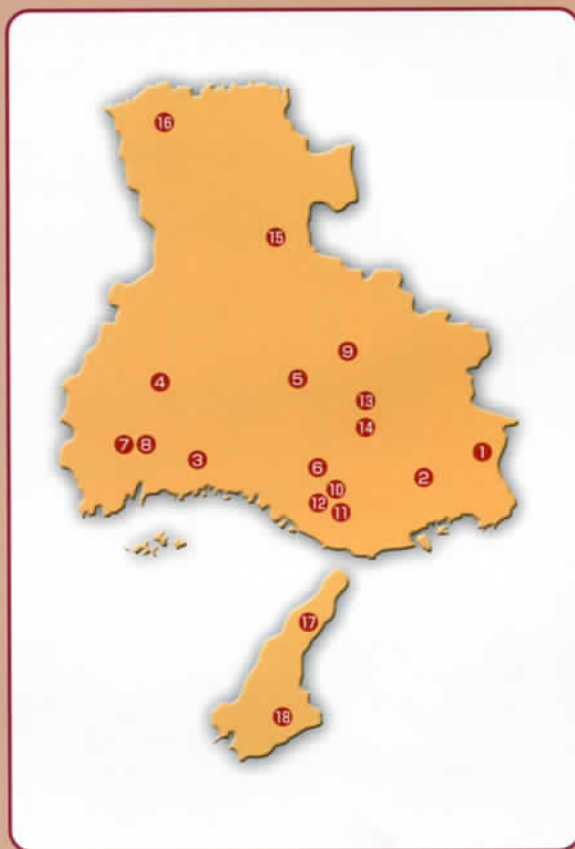
平成22年

4月23日金 — 6月27日日

■観覧時間：午前9時30分～午後6時（入館は午後5時30分まで）■休館日：月曜日（ただし5月16日までは無休）■会場：兵庫県立考古博物館特別展示室 ■観覧料金：大人500円（400円）、大学生400円（320円）、高校生250円（200円）※1）内は20名以上の団体料金※小学生・中学生は無料※障害者およびその介護者、65歳以上の方は半額
【主催】兵庫県立考古博物館 神戸新聞社 【後援】NHK神戸放送局 豊岡市教育委員会 養父市教育委員会 朝来市教育委員会 新美町教育委員会 新温泉町教育委員会 【協力】考古家倶楽部

●平成21年度の主な発掘調査遺跡一覧●

No.	地域	遺跡名	時代	内容
1	摂津	南町遺跡	古墳	産業遺跡
2		堂垣内遺跡	中世	墳墓
3	播磨	沖代遺跡	弥生	集落遺跡
4		神谷戎現行遺跡	弥生	集落遺跡
5		大門畑瀬遺跡	弥生～古墳	集落遺跡
6		河高・溝ノ越遺跡	弥生	集落遺跡
7		有年原・クルミ遺跡	古墳	集落遺跡
8		有年牟礼・井田遺跡	弥生～古墳	集落遺跡
9		大伏北山遺跡	古墳・中世	古墳、経塚
10		豊地城跡	中世	城跡
11		明石城下町遺跡	近世	町屋跡
12		古大内遺跡	古代	駅家推定地
13	淡路	津万遺跡群	弥生～中世	集落遺跡、墓跡
14		高松3号墳	古墳	古墳
15	但馬	池田古墳	古墳	古墳
16		浜坂道路確認	弥生～古墳	墳墓、古墳
17	淡路	馬木遺跡	弥生	集落
18		田井A遺跡	古代	集落



編集後記

平成21年度は、上の表のとおり弥生時代から近世までの20箇所の遺跡を調査しました。近年では、遺跡・建造物・建築物・景観・庭園・祭礼・民俗等々、地域社会を構成するすべての文化的要素を総合的に捉え、地域作りのツールに活用しようとする動きが始まっています。生野鉱山、城崎温泉、印南野のため池群などは、地域の特色を示す大切な文化財と認識されています。埋蔵文化財においても例外ではありません。地域の特徴を示す「新規参入の遺跡」を調査すると、興味深い新たな成果を多く得ることとなります。こうした発掘調査成果を楽しく活用する場所が、私達の考古博物館です。どうぞ、平成22年度の活動にもご期待下さい。



21教 ㊦ 2-059A4